

(4) 重点区域の名称：上賀茂地区

重点区域の面積：約23ha

ア 地区の設定

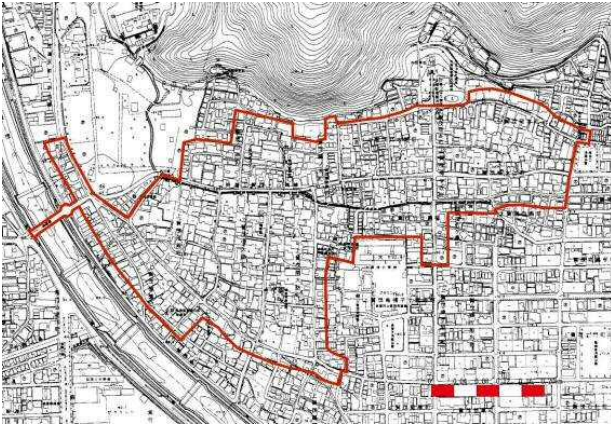


図4-19 重点区域図（上賀茂地区）

当地区は、上賀茂神社門前から明神川^{みょうじんがわ}周辺の地域から構成されている。

この地区は古代より信仰の対象であり平安京の地主神社であった、上賀茂神社を中心として発展した地域である。その門前に位置する社家町^{しゃけ}は、中世以降、賀茂六郷の中心にあつて、上賀茂神社に仕える神官の住居（社家）や農家が混在する町として、明神川沿いを中心に発展してきた。

この地区内の明神川をはじめとする水路は、上賀茂神社と結ばれる「神聖」なものであると同時に戦国期の動乱の中で、自衛施設として整備された「構」や「堀」のなごりである。近世までは生活用水、現代では「すぐき」をはじめとするこの地区の農業生産用の用水路でもある。また、道路は多くのT字路を有し、この地区の景観を豊かなものとしている。更に、明神川の清流や神宮寺山の緑などの豊かな自然環境を背景として土堀、薬医門や腕木門、土堀越しに見られる前庭の樹々により形成される通り景観^{いのこさす}、通りからこれらを介して望見できる社家の家^い・叔首による妻飾りや束と貫による妻飾り、農家の大屋根と深い軒、洗練された意匠の町家等が、ひなびた中にも厳しさを織り込んだ、まとまりのある界わい景観の特性を示している。

毎年5月には、京都の三大祭りの一つであり王朝風俗の伝統が色濃く残る加茂社の祭礼、葵祭が行われる。葵祭に先立ち、さまざまな神事が執り行われ、祭当日には平安時代の装束に身を固め行列を行う「路頭の儀」や神社にて執り行われる「社頭の儀」

等が、上賀茂神社の神聖な山や建造物、社家の町並みと一体となって、平安の昔を思わせる歴史的風致を形成している。また、葵祭と同じ日に今宮神社の祭礼である「やすらい祭」が行われる地区の一つであることでも知られており、歴史的な町並みと一体となって歴史的風致を形成している。

当地区の区域は、景観法や都市計画法に基づき定めた景観地区のうち、歴史遺産型美観地区（上賀茂郷界わい景観整備地区）に指定している区域と上賀茂神社の参道の意味合いが強い御園橋^{みその}の区域から成り、当該区域はこれらの区域界に基づき定めている。

この区域においては、第7章に記載している事業を展開する予定である。

具体的には、主なハード事業として、京都市の歴史的風致の重要な構成要素であり、地域内に多く存在している歴史的建造物の修理・修景事業と御園橋改修事業である。また、ソフト事業は、市域全域に関連する伝統産業や伝統文化の振興に関する事業を広く展開している。これらソフトの取組にハード事業の整備を併せて行うことにより、歴史的風致の維持向上を効果的に推進できることから、重点区域を設定している。